



エコアクション21

2012 年度 環境活動レポート

(2012年 4月 ~2013年 3月)



株式会社 地研

発行日：2013年 5月8日

【目 次】

1. 組織の概要	P. 1
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	P. 2
3. 環境方針	P. 3
4. 環境管理組織体制	P. 4
5. 環境目標	P. 5
6. 環境活動計画	P. 6
7. 環境目標の実績	P. 7
8. 環境活動計画の取組結果とその評価	P. 9
9. 次年度の環境活動計画の取組内容	P. 10
10. 環境関連法規等の遵守状況及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P. 11
11. 代表者による評価と見直しの結果	P. 12

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 地研
代表取締役社長 森 直樹

(2) 所在地

本社：〒780-0974 高知県高知市円行寺25番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 専務取締役 吉本和男 E-mail: k-yoshi@kcb-net.ne.
EA21委員長 事業部 技術課長補佐 山中 仁人
連絡先 TEL ; 088-822-1535 E-mail: chiken@kcb-net.ne.jp
Fax ; 088-822-1548

(4) 事業内容（認証・登録の範囲）

建設コンサルタント業：国土交通大臣・第8753号
地質調査業：国土交通大臣・第1328号
測量業：国土交通大臣・第16041号
建設業：高知県知事許可（特-23）とび・土工事業、さく井事業、土木工事業

(5) 事業の規模

設立年月日 昭和45年1月31日
資本金 25,000千円

活動規模	単位	2009年	2010年	2011年	2012年
売上高	百万円	347	343	381	420
従業員	人	21	20	21	24
床面積	m ²	516.0	516.0	516.0	516.0
(社屋)	(m ²)	342.9	342.9	342.9	342.9
(倉庫)	(m ²)	173.1	173.1	173.1	173.1

従業員は、4月1日現在

(6) 会計年度 10月 ～ 9月

2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

(1) 対象範囲

株式会社 地研 全社

(2) レポートの対象期間

2012年 4月～2013年 3月

(3) 発行日

2013年 5月8日

(4) 次回発行予定日

2014年 5月予定

(5) 作成責任者

環境管理責任者 吉本 和男

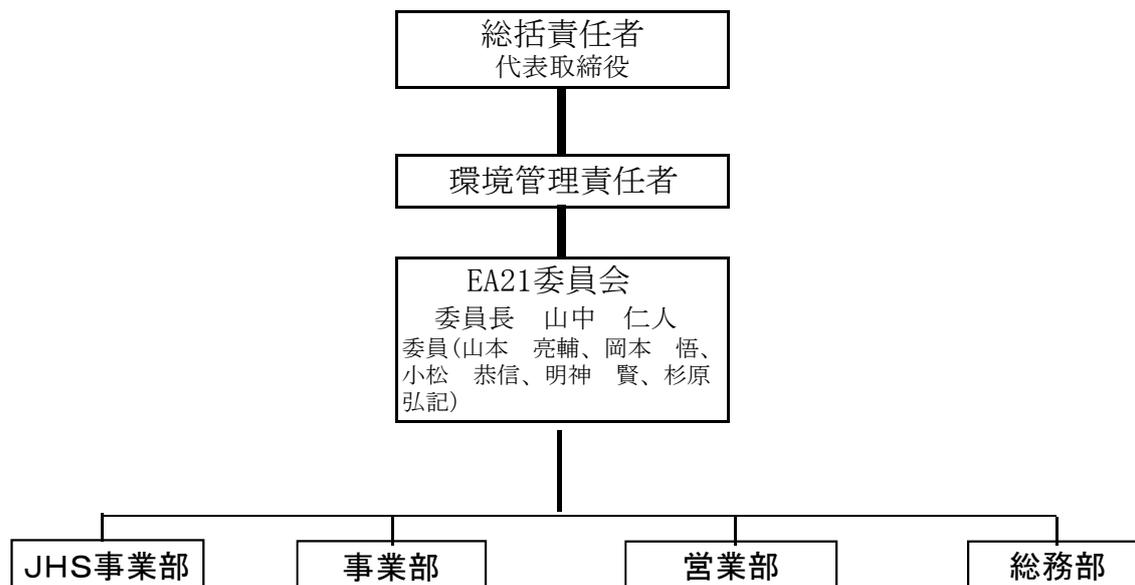
環 境 方 針

当社は、公共事業を主体とした地質コンサルタントであり、地域社会と地球環境の保全に対し、自主的で継続的な取り組みを通じて「社会の持続的発展」に向け努力し、企業活動のあらゆる面において、環境に配慮した行動を行う。

1. 当社は事業活動のあらゆる面で、環境関連の法律・規制・条例を遵守し、全社員の参加で環境保全に取り組む。
2. 環境方針を達成するための目的及び目標を設定し、定期的に見直しながら、継続的な改善を図る。当社の環境保全活動として、次の事項を活動項目として推進する。
 - ① 事業所の事業活動における環境負荷の低減。
二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・総排水量を把握し、使用量の低減や再資源化を推進する。
 - ② グリーン購入の徹底
自らが購入する製品・原材料については、グリーン購入を徹底する。
 - ③ 提供する製品及びサービスにおける環境への取り組み
地質コンサルタントとして、環境に配慮した調査・設計、環境負荷の少ない工法の採用を推進する。
3. 地域社会の一員として、自覚と責任を持ち、地域における環境保全に努める。
4. 全社員に環境方針を周知・徹底するとともに、環境活動レポートを作成し、積極的に公表する。

平成24年4月1日
株式会社 地 研
代表取締役 森 直樹

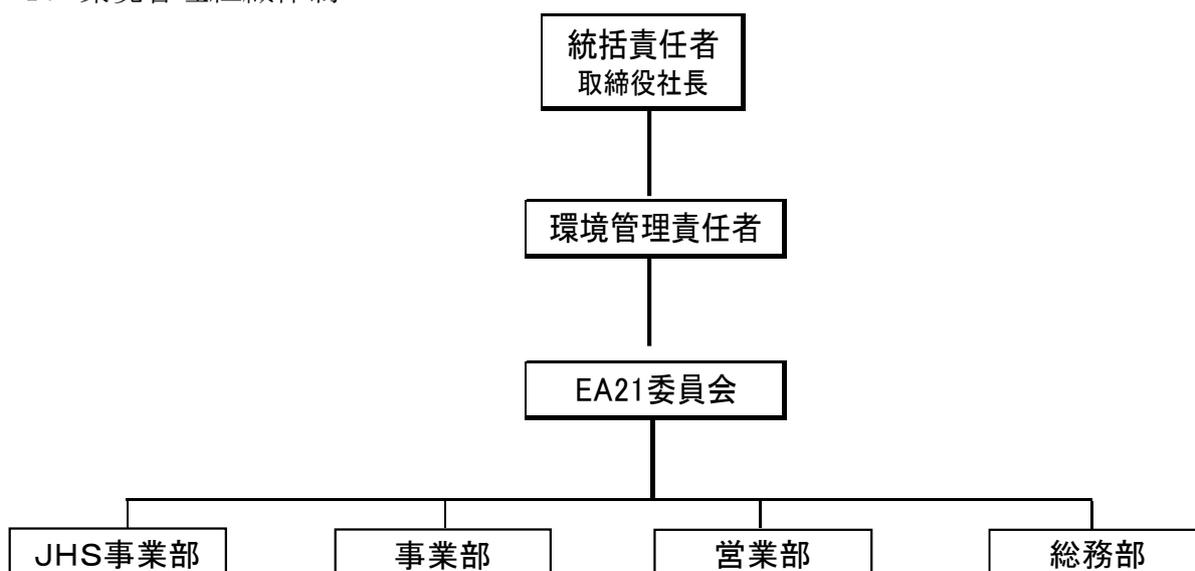
4. 環境管理組織体制



環境経営システム役割・責任・権限表

	責 任 ・ 権 限
統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> ○環境方針の決定 ○環境管理責任者の任命 ○環境経営システムの実施に必要な資源を準備 ○環境経営システム全体の評価と見直し
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ○環境経営システムを構築し運用・管理を行なう ○環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ○環境目標の達成状況より、必要な場合は是正処置を行なう ○環境関連外部コミュニケーションの窓口
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○環境目標、活動計画書の原案作成 ○環境目標達成に向けた取り組みの推進を図る ○管理責任者の業務を補佐する ○関連文書の記録・管理を行なう ○従業員への教育訓練の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ○データ収集と数値を記録し委員長に提出する ○委員会からの周知を受け、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境管理組織体制



環境経営システム役割・責任・権限表

	責 任 ・ 権 限
統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> ○環境方針の決定 ○環境管理責任者の任命 ○環境経営システムの実施に必要な資源を準備 ○環境経営システム全体の評価と見直し
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ○環境経営システムを構築し運用・管理を行なう ○環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ○環境目標の達成状況より、必要な場合は是正処置を行なう ○環境関連外部コミュニケーションの窓口
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○環境目標、活動計画書の原案作成 ○環境目標達成に向けた取り組みの推進を図る ○管理責任者の業務を補佐する ○関連文書の記録・管理を行なう ○従業員への教育訓練の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ○データ収集と数値を記録し委員長に提出する ○委員会からの周知を受け、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境目標

(1) 単年度目標

項目	単位	基準年度 H21.4～H22.3	24年度目標 H23.4～H24.3	基準年度比
電灯使用量	kWh	31,673	30,089	95%
低電圧使用量	kWh	11,350	10,782	95%
ガソリン使用量	ℓ	33,252	32,254	97%
軽油使用量	ℓ	2,961	2,902	98%
灯油使用量	ℓ	157	157	100%
LPG使用量	ℓ	11	8	70%
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	101,657	98,362	97%
水道水使用量	ℓ	334	267	80%
産業廃棄物排出量	kg	1,950	1,755	90%
一般廃棄物排出量 (紙資源リサイクル量)	kg	525	650	124%
グリーン購入	%	2品目/年	5品目/年	
環境配慮設計	件	1	1	100%
環境負荷の少ない工事 (元請1000万円以上)	件	—	1	

(2) 中・長期目標

項目	単位	H21年度実績 (基準年)	24年度目標	25年度目標	26年度目標	27年度目標
電灯使用量	kWh	31,673	30,089	30,900	25年目標と同じ (なお、目標設定に当たっては前年度の実績も踏まえて検討する)	
低電圧使用量	kWh	11,350	10,782	11,000		
ガソリン使用量	ℓ	33,252	32,254	27,750		
軽油使用量	ℓ	7,984	2,902	3,000		
灯油使用量	ℓ	157	157	250		
LPG使用量	ℓ	11	8	8		
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	101,657	98,362	88,784		
水道水使用量	m ³	334	267	260		
産業廃棄物排出量	kg	1,950	1,755	1700		
一般廃棄物排出量 (紙資源リサイクル量)	kg	525	650	740		
グリーン購入	%	2品目/年	5品目/年	95%		
環境配慮設計	件	1	1	1		
環境負荷の少ない工事 (元請1000万円以上)	件	—	1	1		

CO₂排出量の削減を目指す。

6. 環境活動計画

期間： 平成24年4月1日 ～ 平成25年3月31日

項目		活動内容	担当者
CO ₂ 排出量の削減	電気量使用量の削減 (電気・低電圧)	1. 昼食時及び不使用部屋消灯 2. 室内温度の適正化 (冷房28℃、暖房20℃)	小松 恭信
	燃料使用量の削減 (ガソリン、軽油、灯油、LPG)	1. 室内温度の適正化(暖房20℃) 2. エコ安全ドライブの推進 (ステッカー表示)	山中 仁人
水使用量の削減		1. 節水表示を行う 2. 節水コマ	明神 賢
産業廃棄物排出量削減		1. 再利用可能はリサイクル化 2. 個人の出すゴミは持ち帰る	岡本 悟
一般廃棄物排出量削減 (紙資源リサイクルの促進)		1. 不要原紙の再利用(適正なリサイクル) 2. 両面印刷・コピーの周知 3. FAXの電子化を周知	山中 仁人
グリーン購入		1. エコ・リサイクル製品の優先購入	小笠原 夏子
環境配慮設計		1. 調査設計業務は、環境に配慮した提案を行う。	山本 亮輔
環境負荷の少ない工事		1. 工事用看板に木製を活用する。 2. 低騒音・排ガス規制機械の使用。	現場代理人
地域貢献活動	1. ロードボランティアによる地域の清掃		ワークショップ委員会
	2. 秋のおもてなし一斉清掃		山中 仁人
	3. 現場周辺の道路等の清掃		現場代理人

7. 環境目標の実績

(1) 本年度実績

項目	単位	基準年度 H21.4～H22.3	24年度目標 H23.4～H24.3	24年度実績 H23.4～H24.3	達成率 (%)	評価
電灯使用量	kWh	31,673	30,089	30,910	102.7%	×
低電圧使用量	kWh	11,350	10,782	11,500	106.7%	×
ガソリン使用量	ℓ	33,252	32,254	27,750	86.0%	○
軽油使用量	ℓ	2,961	2,902	3,337	115.0%	×
灯油使用量	ℓ	157	157	270	172.0%	×
LPG使用量	ℓ	11	8	12	155.8%	×
CO2排出量	kg-CO ₂	101,657	98,362	89,923	91.4%	○
水道水使用量	ℓ	334	267	259	97.0%	○
産業廃棄物排出量	kg	1,950	1,755	1,020	58.1%	○
<small>排出量</small> <small>(紙資源リサイクル)</small> <small>量</small>	kg	525	650	755	116.2%	○

※電力のCO2排出係数は、0.378kg-CO₂/kwh を使用

(2) グリーン購入

1. 文具類は、ほぼ100%エコ商品又はリサイクル製品を購入した。
2. エコ製品であるコピー複合機3台を導入した。

(3) 環境配慮設計

1. 設計業務に環境に配慮した提案（2件）をした。
 業務名：初月301号線法面調査設計委託業務
 ①環境配慮型の受圧板を採用した。
 ②運搬時のCO2削減を目的に、軽量タイプの受圧板を採用した。
 ③緑化型の受圧板を採用した。
 業務名：道改(特定)第07-102-6号県道土佐伊野線地質調査及び法面詳細設計委託業務
 材料運搬時のCO2削減を目的に、製造元が地元の受圧板を採用した。

(4) 環境負荷の少ない工事实績

1. 1,000万円以上の工事を1件受注し、木製看板の設置、低騒音・排ガス規制機械(発電機、コンプレッサー)の使用。
 業務名：地すべり第7-2号谷ノ内地区地すべり対策工事

(5) 地域貢献活動

1. ロードボランティア6回実施。
2. 高知県おもてなし課主催の「秋のおもてなし一斉清掃」に4名参加。
3. 現場周辺の道路等の清掃実施。
 業務名：地すべり第7-2号谷ノ内地区地すべり対策工事

(6) その他

金属類リサイクル量 650kg

(5) 受注件数に対する環境実績

①受注件数の推移

(件)

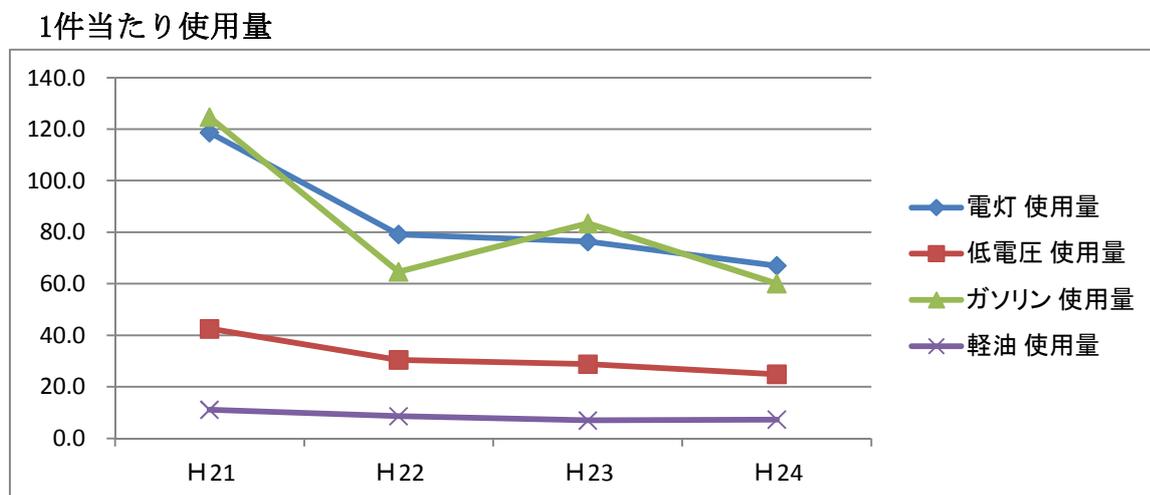
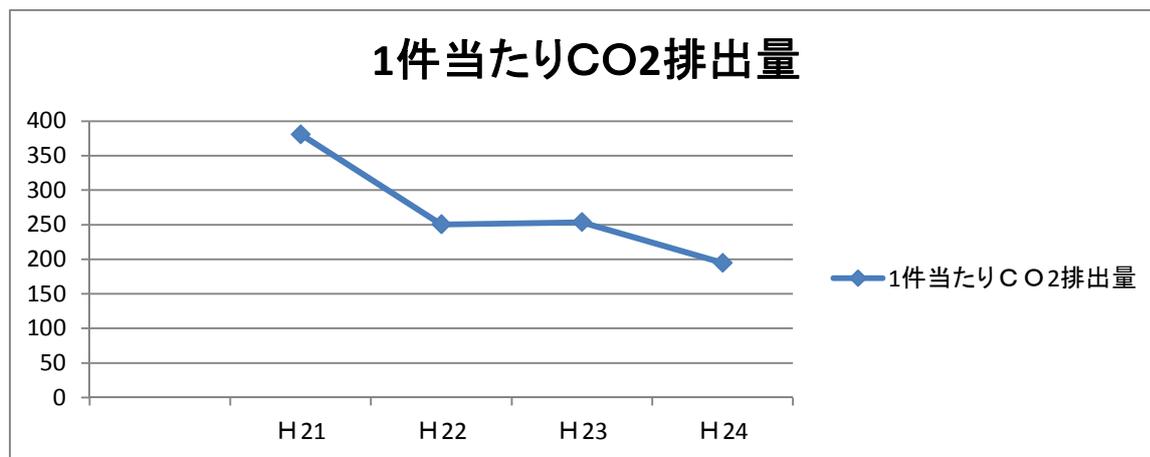
項目	H21	H22	H23	H24
A調査	41	40	47	52
B調査	80	125	103	118
C調査	27	32	23	33
D調査	108	187	212	255
E工事	11	8	8	4
合計	267	392	393	462

※H21は基準年度

②受注1件当たりの使用量及びCO2排出量

年度	売上高 (単位百万)	受注件数	電灯		低電圧		ガソリン	
			合計	使用量	合計	使用量	合計	使用量
H21	347	267	31,673	118.7	11,350	42.5	33,252	124.6
H22	343	392	31,047	79.2	11,929	30.4	25,357	64.7
H23	382	393	30,025	76.4	11,327	28.8	32,769	83.4
H24	420	462	30,910	66.9	11,500	24.9	27,750	60.1

年度	軽油		灯油		CO2排出量		備考
	合計	使用量	合計	使用量	合計	排出量	
H21	2,961	11.1	157	0.6	101,657	380.9	基準年度
H22	3,378	8.6	441	1.1	98,234	250.5	
H23	2,741	7.0	362	0.9	99,603	253.5	ガソリン車へ2台変更
H24	3,337	7.2	270	0.6	89,922	194.8	



※23年度は、ディーゼル車2台をガソリン車に変更したため、ガソリンは増加し、軽油は減少。

8. 環境活動計画の取組結果とその評価

期間：平成24年4月1日 ～ 平成25年3月31日

「7. 環境目標の実績」を参照願います。

(1) CO₂排出量の削減

CO₂の排出量は、目標値に対して8.6%削減されているが、項目別に見るとガソリン使用量以外は、未達成の状況にある。しかし、基準年度と比較すると全体に削減傾向が見られる。又、受注件数の増加に伴い、年別の受注件数1件当たりの排出量及び使用量を算出した結果、基準年度の50%削減となっている。

1. 電灯・低電圧について

本年度は、電灯・低電圧ともに目標値を前後する形で推移しているが、最終てきには、3～7%目標値をオーバーし、未達成の結果となった。要因としては、平成24年4月及び平成25年の冬場の気温が低く、エアコンの使用時間が多かったことや、インフルエンザ対策のための加湿器を常備したこと、2Fで使用していたファンヒータが1台から2台に増やしたことが考えられる。来年度は、これまで通りの節電に加え、不要電灯の消灯、エアコンの温度管理、2Fブライド有効利用、パソコンの昼休み時電源切り、休前日の勤務終了時にはパソコンコンセントを抜くなどの活動をさらに徹底するよう努める。

2. ガソリン・軽油・灯油・LPGについて

ガソリン以外の項目については、すべて目標値に対し未達成の結果となった中で、特に灯油、LPGについては、50～70%と目標値を大きく上回る結果となった。要因として、平成24年4月及び平成25年の冬場の気温が低く、2Fで使用していたファンヒータが1台から2台になったこと、湯沸し器を頻度で使用したことが考えられる。これらの要因については、気象条件に左右されるため特に問題ないと思われるが、今後、環境に配慮した機器使用に努める必要がある。

(2) 水道水の使用量

目標値に対して3%の削減となった。基準年度以降に節水コマを設置し、EA21の実施により節水の意識が高まり、基準年度より20%以上の削減となる。今後も節水を継続的に実施する。

(3) 産業廃棄物の削減

受注工事量により産業廃棄物は大きく変動するが、建設系廃棄物マニフェストにより適切に処理している。本年度は、目標値の58%の排出量であった。再利用リサイクル化に関しては、金属類650kgをリサイクルをした。

(4) 一般廃棄物排出量削減（紙資源リサイクル量）

目標値の16%増と紙資源リサイクル量は、従業員の意識の高まりと共に年々増加している。

(5) グリーン購入

事務機（コピー複合機3台）及び文具類は、ほぼ全品をエコ商品及びリサイクル製品を購入した。

(6) 環境配慮設計

設計業務に環境に配慮した提案（2件）をした。

業務名：初月301号線法面調査設計委託業務

業務名：道改(特定)第07-102-6号県道土佐伊野線地質調査及び法面詳細設計委託業務

(7) 環境負荷の少ない工事实績

1,000万円以上の工事を1件受注し、木製看板の設置、低騒音・排ガス規制機械（発電機、コンプレッサー）の使用した。

業務名：地すべり第7-2号谷ノ内地区地すべり対策工事

(8) 環境活動等

環境活動等は計画通り実施した。しかし、毎月のEA21委員会の開催及び月1回の朝礼での報告を怠ったため、次年度は毎月の朝礼等でEA21の状況報告を行う。

9. 次年度の環境活動計画の取組内容

期間：平成25年4月1日 ～ 平成26年3月31日

項目		活動内容	担当者
CO2排出量の削減	電気量使用量の削減 (電気・低電圧)	1.昼食時及び不使用部屋消灯 2.室内温度の適正化 (冷房28℃、暖房20℃) 3.夏場は社屋南側のブラインドをしめる。 4.休日前にはパソコンのコンセントを抜く。	小松 恭信
	燃料使用量の削減 (ガソリン、軽油、灯油、LPG)	1.室内温度の適正化(暖房20℃) 2.エコ安全ドライブの推進 (ステッカー表示) 3.車両の買い替え時は低燃費車の導入を検討する。	山中 仁人
水使用量の削減		1.節水表示を行う 2.節水コマ	明神 賢
産業廃棄物削減		1.再利用可能はリサイクル化 2.個人の出すゴミは持ち帰る	岡本 悟
紙資源リサイクルの促進		1.不要原紙の再利用(適正なリサイクル) 2.両面印刷・コピーの周知 3.FAXの電子化を周知	山中 仁人
グリーン購入		1.エコ・リサイクル製品の優先購入。	小笠原 夏子
環境配慮設計		1.調査設計業務は、環境に配慮した提案を行う。	山本 亮輔
環境負荷の少ない工事		1.工事用看板に木製を活用する。 2.低騒音・排ガス規制機械の使用。 3.施工計画書にEA21に関する項目の明記。	現場代理人
地域貢献活動	1.ロードボランティアによる地域の清掃		ワークショップ委員会
	2.秋のおもてなし一斉清掃		山中 仁人
	3.現場周辺の道路等の清掃		現場代理人

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 当社の事業に該当する環境関連法規等の遵守状況

法規名	適用条項	具体的内容	遵守状況
産廃の処理及び清掃に関する法律	第3条	事業者の責務 事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理。	遵守
	第12条	産業廃棄物の事業者の処理。 産業廃棄物の委託契約。	
	第12条の三	産業廃棄物管理票(マニフェスト)の交付。	
	第13条の三7項	マニフェスト交付状況報告書の作成及び高知県知事及び高知市長への提出。	
騒音規制法	第14条	特定建設作業の実施の届出。 (建設作業開始7日前までに市町村長に届出)	遵守
振動規制法	第14条	特定建設作業の実施の届出。 (建設作業開始7日前までに市町村長に届出)	遵守
資源の有効な利用の促進に関する法律 (リサイクル法)	第4条	土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材等の減量化及びリサイクル。	遵守
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律 (建設リサイクル法)	第5条	○建設資材廃棄物の発生抑制、分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化費用の低減努力。 ○建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用する努力。	遵守
水質汚濁防止法	第12条	事業所排出口における排水基準に適しない排出水の排出制限。	遵守
	第14条	排出水の汚染状態の測定等。	
浄化槽法	第7条、第8条	法定点検、保守点検	遵守
高知市環境基本条例	第5条	事業者の責務 ○事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を行うにあたっては、これに伴って生ずる公害を防止し、廃棄物を適正に処理し、及び自然環境を適正に保全するために必要な処置を講ずるとともに、環境の保全上の支障を防止するため事業活動に伴う環境への負荷の低減に努めなければならない。 ○前項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、地域社会の一員として、地域の環境の保全及び創造に自ら積極的に努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力する責務を有する。	遵守
高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例	第4条	事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。	遵守
高知県環境基本条例	第6条	事業者の責務 事業者は基本理念にのっとり、その事業活動を行うにあたっては、これに伴って生ずる公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な処置を講ずる責務を有する。	遵守

(2) 環境関連法規等の違反・訴訟等の有無

平成24年4月1日～平成25年3月31日までに、環境関連法規等の違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

11. 代表者による全体の評価と見直しの結果

環境管理責任者の報告及び改善への提案				代表者による見直し	
報告日:平成25年4月24日				変更の必要性の有無・指示事項	
[取り組み状況の評価結果] ①環境関連法規制等の順守状況(環境関連法規等順守記録による) ・順守 ②問題点の是正処置及び予防処置の状況 ・特になし ③前回までの代表者の指示事項への対応 ・特になし <改善への提案> ・EA21委員会を毎月開催する。 ・朝礼でエコ委員長が毎月の報告を行い、全社員に周知する。				[環境方針] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 1. 環境方針は毎年更新する。	
[目標・環境活動計画の達成状況] (詳細は7. 環境目標の実績参照)				[目標・活動計画] 変更の必要性: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 1. 計画未達成の分野は、原因を詳細に説明したうえで次年度計画を立案する。 2. エコ運転だけの削減では限界があるので、長期的なエコカー導入計画を検討してほしい。 3. 電気使用については、チェック機能を明確にする必要がある。	
目標項目	目標値達成状況	活動計画実施状況	コメント (目標値に対するコメント・活動計画に対するコメント)		
電力の使用量	×	△	2Fの温度管理が不十分。今後は温度管理を徹底する。		
ガソリン使用量	○	○	車の入替効果があった。		
軽油使用量	×	○	JHSの県外業務増加の為。		
灯油使用量	×	△	2Fのファンヒータ1台追加された。今後は、室内温度の管理を徹底し、使用頻度を削減する。		
LPG使用量	×	○	今後の引き続き節約する。		
CO2排出量	○	○	目標を上方修正する。		
水道水使用量	○	○	今後も節水に努める。		
産業廃棄物排出量	○	○	工事量により増減が大き。現状維持。		
紙資源リサイクル量	○	○	目標を上方修正する。		
<改善への提案> ①電気使用量は、冬場の気温が下がったため、使用頻度が増え3~7%のオーバーとなったが、使用料は気象条件に左右されるため、目標値は下方修正をする。 ②ガソリン使用量は、車の入替効果で達成した。25年度は本年度実績を目標にする。 ③軽油使用量は、JHSの県外業務が増えたため未達成であった。25年度は改善の見込みがある為、24年度使用量の10%減の3,000ℓとする。 ④CO2排出量は、計画の8.6%減と達成したが、ガソリン使用量の削減の効果である。25年度は、本年度実績の10%削減を目標にする。 尚、CO2排出量を受注件数で比較した。CO2排出関連の1件当たり使用量は、基準年度から半減している。(7. 環境目標の実績参照) ⑤水道水使用量及び産業廃棄物排出量は、目標を達成しているため、本年度の目標値は若干下方修正する。 ⑥紙資源リサイクル量は、年々増加している。業務量の増加に伴うところもあるが、全従業員の分別意識の向上が寄与している。本年度の目標値は若干下方修正する。 ⑦グリーン購入では、事務機(コピー複合機3台)及び文具類は、ほぼ全品をエコ商品及びリサイクル製品を購入した。 ⑧環境配慮設計では、環境に配慮した受圧板を2業務で採用した。 ⑨ 1,000万円以上の工事を1件受注し、木製看板の設置、低騒音・排ガス規制機械(発電機、コンプレッサー)の使用した。				[その他] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 1. 4項の役割・責任・権限表を再確認して、特に委員だけの活動にならないよう、全員で取り組む仕組みを完成させること。	
[周囲の変化の状況] ①外部コミュニケーション記録より ・苦情なし。 ②環境関連法規制等の動向他 ・平成25年1月23日改正。 <改善への提案> ・特になし				[総括] 1. 今年度は活動が低迷した感があるが、次年度は委員会組織も再編されたため、目標達成に向けて再出発してほしい。	
代表者が自ら得た情報 ・特になし					